

(英語版)

(アラビア語版)

(目次)

見果てぬ平和 ― 中東の戦後75年 (百六十)

第六章 現代イスラームテロの系譜 (十五)

百六十 悪の枢軸イラクとの戦争 (2003年) (三一四)



こうして2003年3月、米国はイギリス、オーストラリアなど数か国と有志連合を組  
み、「イラクの自由作戦」の名のもとにイラクに攻め込んだ。戦いに臨む米軍には伝統に  
輝く二つの勇ましいスローガンがあった。第二次世界大戦そして湾岸戦争に続いて対イ  
ラク戦争でもこの掛け声が唱えられた。「ショー・ザ・フラッグ(Show the Flag)」と「ブ  
ーツ・オン・ザ・グラウンド(Boots on the ground)」の二つのスローガンである。

これらを直訳すれば「ショー・ザ・フラッグ」は「旗(幟)色を鮮明に」、「ブーツ・オン・  
ザ・グラウンド」は「戦場に軍靴の音高く」ということになる。二つを合わせて意識する  
なら「軍旗を押し立てて前線に乗り込む」ということにもなるのであろう。つまりそこに  
あるのは「敵か味方かはつきりさせろ」ということであり、そして「ともかく戦場で敵と  
直接対峙しろ。臆病者になるな」と叱咤激励するのである。テキサス出身のカウボーイの  
末裔ブッシュ大統領は、かつてインディアン(差別用語だとして現在では「ネイティブ・  
アメリカン」と称されている)を蹴散らした騎兵隊長の気分だったと考えればわかりや  
すい。

(続々)

荒葉 一也

E-mail: [Arehakarazuyal@gmail.com](mailto:Arehakarazuyal@gmail.com)